

H.U.グループホールディングス株式会社
2022年3月期第1四半期決算説明会テレカンファレンス 主な質疑応答

[日 時] 2021年8月10日(火) 16:00~16:45

Q-1

- コロナ関連売上高が QonQ で約 7 億円の増収であるのに対して連結で粗利率が大きく改善している理由は？

A-1

- 1Q のルミパルスにおけるコロナ関連売上高は試薬が中心であり、4Q と比較してミックスが変化したこと。
- また、4Q には一過性の費用 9 億円が発生していたこと。(IVD 事業における一過性の評価減および廃棄費 6 億円と、ENB 事業における貸倒引当金の繰り入れ 3 億円)

Q-2

- 特殊検査の ID 数は 2019 年比でマイナスの状況が継続しているが、市場全体が縮小しているのか、御社がシェアを落としているのか？

A-2

- 顧客数は伸長しており、当社がシェアを落としているとは考えていない。
- また、一般検査については 19 年比で成長している。

Q-3

- 持分法による投資損失が QonQ で大きくなった理由は？

A-3

- BMGL において、遺伝子関連検査は伸長しているものの、米国では PCR 検査数が減少傾向にあること。
- 平安保険グループとの JV について、20 年度中に開設した 5 つの新規ラボが立ち上げ期にあること。

Q-4

- 業績予想の修正について、上期のみを上方修正し、下期を据え置いた理由は？

A-4

- 1Q は新型コロナウイルス PCR 検査数が想定以上であったことに加えて想定 of 価格下落には至らなかった。
- 空港検疫所の検査数が 7 月以降増加し、今後も入国者数の増加を見込むこと。
- 主に上記二つの理由により上期の業績予想を修正した。
- 一方下期については、新たな変異株の出現等のリスクはあるものの、現時点でこれらの影響を織り込んで計画を立てる状況にはないと判断して据え置いた。

Q-5

- 修正後の予想で 1Q から 2Q にかけて減益となる理由は？

A-5

- PCR 検査数は期初想定通りではあるものの、ワクチン接種が進む中で価格は下落していくと想定している。
- IVD については、1Q は試薬売上による利益貢献が大きかったが、2Q は機器の設置が進む見込みであり、マージンは下がる見通し。
- また、新セントラルラボ関連費用の一部が 1Q から 2Q に期ずれしたこと等によって 1Q から 2Q にかけては増収減益の予想をたてている。

Q-6

- 4Q から 1Q にかけて粗利率が改善しているが、今後も継続するのか？

A-6

- ワクチンの普及等によって検査需要や価格が変化すると考えており、今後を見通すことは難しい。

Q-7

- PCR 検査について、他社よりも高い価格で受託できていると考える理由は？また価格は下落基調にあるのか？

A-7

- 当社は病院や公的機関からの受託が中心で、広く一般から受託しているわけではないため、他社と比較して影響を受けにくいと考えている。
- 価格は期初想定よりも下げ幅は小さかったものの、下落は続いていくと想定している。

Q-8

- 医療従事者へのワクチン接種はほぼ完了したが、検査需要への影響は？

A-8

- ワクチン普及後、検査需要がどのように推移していくかの見通しは難しい。
- いずれにせよ、緊急事態発出などの環境変化によって検査数は増減すると想定している。

Q-9

- 御社の抗原定量検査の優位性は？また、競合製品の上市によって簡易キットのように単価が下がるリスクはあるのか？

A-9

- 昨年度、市場におけるルミパルス機器の設置が伸長し、インフラが広がったことは大きなアドバンテージ。
- 市場原理が働くことは想定されるが、現時点では簡易キットのように競合製品が多い状況ではないため、価格の考え方は異なると考えている。

Q-10

- ルミパルスのアミロイドβ測定試薬が承認されたが、業績への貢献はどのように考えればよいか？また血液検体を用いた検査について何かコメントはないか？

A-10

- 現時点では脳内アミロイドβの蓄積状態把握のための試薬であること、国内でアルツハイマー病の治療薬が承認されていないことを考慮すると、積極的に販売を進めるものの下期で大きな貢献が見込めるものではなく、本格的な貢献はもう少し先と考えている。
- 血液検体を用いた検査については、開発の加速が必要と考えている。